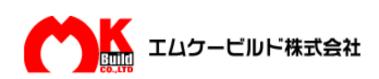
DFシーラント施工要領書

平成28年1月



滴応冬件

項目	適用基準	
	疲労ひび割れ	
	施工継目ひび割れ	
用途	リフレクションクラック	
	低温クラック	
	凍上クラック	
クラック幅	3cm以上	

調査

❶目視調査により、ひび割れの程度

❷測定法にはスケッチによる方法と路面性状調査による方法などでひび割れ率から維持修繕の要否 を判断する。

表-3.3.1 ひび割れ率による工法選定上の区分の目安 (a) 自動車専用道路

	L	M	Н
ひび割れ率(%)	10程度以下	10~20 程度	20 程度以上
	/b) -	机学功	

	L	M	H
ひび割れ率(%)	15 程度以下	15~35 程度	35 程度以上

注1:L, M, Hは、維持修繕工法を選定するにあたっての目安であり、維持修繕行為 の実施の要否を判断する管理目標値とは異なる。

注2:L. M. Hのそれぞれの値は、「道路維持修繕要綱」や実績などを踏まえ設定

注3:ポーラスアスファルト舗装は別途考慮する。

舗装の維持修繕ガイドブック2013(日本道路協会)を引用



1. DFシーラント

2. デタック液(タイヤ粘着防止剤)



- *この材料と容器の廃棄は有害特別廃棄物取集場所に処分する。
- *雨に濡れないよう、製品にシートをかけてください。

品質管理

<u> </u>			
項目	基準値	ASTM規格	試験
色相	黒		
比重	1.05以下	ASTM D70	
軟化点	79℃以上	ASTM D36	
伸度25℃	15㎝以上	ASTM D113	クラフコ社が製造lot 毎に試験実施
コーン針入度	3.5mm∼7mm	ASTM D5329	
流動性60°C、5時間	3mm以下	ASTM D5329	
発火点	232℃以上	ASTM E303	

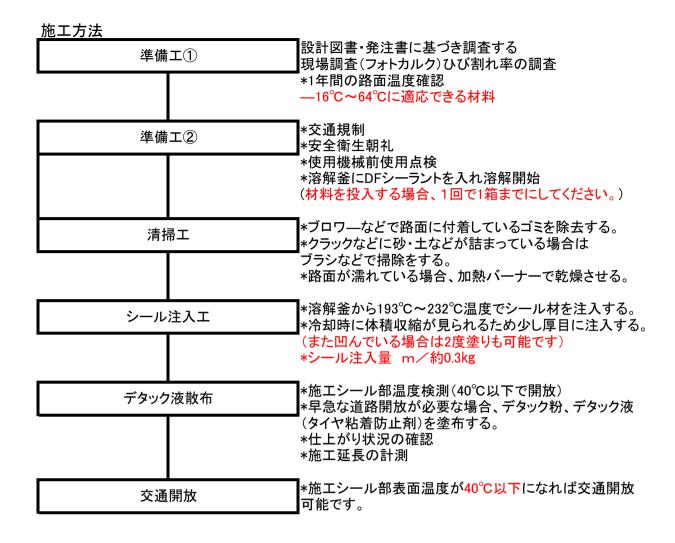
日常施工温度管理

項目	基準値	備考
路面温度	4℃以上	
DFシーラント加熱温度	193°C∼232°C	
交通開放	40℃以下	

施工機械

1. 溶解釜 ミニメルター10

溶解釜	非接触赤外線温度計	その他
		*消火器 *トーチバーナー *プロパンガス *手袋 *水



DFシーラント施工手順



①準備エ DFシーラントを1箱投入し、溶解する。



②準備工 たまに溶解釜の蓋を開け、撹拌する。(厚手の 手袋をし、火傷には注意してください)



③清掃エ クラック等に砂・土などで目詰まりしている場合、しっかりとブラシ等で掃除をしてください。



④清掃エ ブロワ―などで除去する。(路面が濡れている場合は、加熱バーナーでしっかりと乾燥させてください。)



⑤注入工 193℃~232℃範囲でシール材を注入します。 (ハンドルを持ちながら、前に押します)



⑥注入工 シール注入量 m/約0.3kg 冷却時に体積収縮が見られるため、少し分厚目に注入し ます。(また凹みが生じた場合、2度塗りも可能です)



⑦デタック骨材散布・交通開放 デタック粉(グレー)を散布する場合は、ほうきを使用してく ださい。



⑧デタック液散布・交通開放 デタック液を散布する場合は、噴霧器を使用してください。